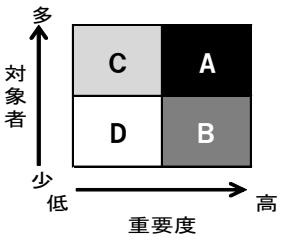
◆各圏域における地域ケア会議開催回数（令和元年度）

	個別	圏域
南部	4	2
小牧	5	1
味岡	6	0
篠岡	9	5
北里	7	0

◆圏域別地域課題

個別地域ケア会議や圏域の地域ケア会議から見いだされた地域課題

【分類の仕方】



A（対象者が多く重要度の高い課題）
：あらゆる機関が連携して、早急に対応なければならない課題

B（対象者は少なくても重要度の高い課題）
：個別支援を中心に課題解決し、その手法を地域で共有して、今後対象が増えた時に対応すべき課題

C（対象者は多いが重要度の低い課題）
：課題の優先度は低いが、対象者が多いことを考慮して予防措置を取る必要がある課題

D（対象者が少なく重要度も低い課題）
：現段階で解決策を見つけることで、最小限にくい止めることができる課題

包括	内容	分類
南部	タクシーやバス、電車以外で、膝の悪い方が外出する手段がない	A
南部	徒歩以外にサロンまでの移動手段がなく、足が悪くなると行けない	A
南部	電動カートを知らない方が多く、交通事故の可能性がある	B
南部	認知症の理解が乏しい（本人を叱責する人がいる）	A
南部	一人暮らし世帯に対し緊急時の対応に不安がある	A
南部	一人暮らし世帯の高齢化により、体調管理が出来ない人が増えている	A
南部	支援の必要な人の把握が難しい	B
南部	サロンの情報が住民に伝わっていない	C

包括	内容	分類
南部	訪問看護をうまく活用できていない	B
南部	福祉用具が使いやすいような道路整備が出来ていない	A
南部	ケアマネジャー及びサービス事業所と地域の支援者の連携がとりにくい	A
小牧	買い物等外出支援がない（交通の便が悪い）	B
小牧	認知症の理解を深める	A
小牧	一人暮らしの不安から、様々な言動によって周囲を振り回す。民生委員がその対応に苦慮する	B
小牧	住民が集える場がない	A
小牧	地域の見守り活動や体制を整え、住み慣れた地域で暮らし続ける	A
小牧	連絡手段となる固定電話や携帯電話がない世帯に対する安否確認や緊急連絡方法	B
小牧	地域活動が持続可能な仕組みと地域の担い手づくり	A
小牧	本人の病気の特性の理解と支援情報が適切に情報共有されていない	B
味岡	坂道が多くバス停まで遠いので、移動手段がない。サロンや小学校でのカラオケ等、集まりの場所があっても移動手段がない。	A
味岡	集いの場があるが、グループ化されており、面識のない方は新規加入しにくい。自治会を抜け近隣との付き合いを拒否し、孤立している。	B
味岡	地区の役員やゴミ当番等輪番制に無理がある。住民の中には、参加出来ない事への理解が得られない場合がある。	A
味岡	認知症見守りステッカーの周知がされていない。一人で外出することが出来るが認知症のため自ら助けを呼ぶ判断ができない。認知症の程度に応じた対応が必要である事が理解されていない。	A

包括	内容	分類
味岡	認知症により、正しくゴミ出しができない。	B
味岡	地域の見守り体制がない。地域での見守りの必要性は分かるが、担い手がいない。ボランティアの担い手が少なく、ボランティアの負担が大きい。	A
味岡	地域の中に定期的（1回/月）な集まりの場はあるが、頻繁（毎日）に誰でも気軽に行く場所がない。	B
味岡	家族として、いつまで自宅で生活でき、どうなると施設に行った方が良いのか、判断基準が分からない。	B
味岡	様々な制度や支援策、どこに何があるのか（集いの場などの社会資源）把握出来ない。	B
味岡	緊急時に遠方かつ高齢の家族以外に駆け付けられる人がいない。	B
味岡	緊急時対応など、他事業所間で連携するに伴い、個人情報の取り扱いをどのようにするか検討が必要。	B
篠岡	・地域資源の担い手が不足している（していく）。 ・そこへ行くための足がない。	A
篠岡	認知症やひとり暮らしの高齢者の増加が予想される中、危機回避ができない人の一人歩きも増えていくが、このことに関心や対応する意識がまだまだ薄い。	A
篠岡	配偶者の介護の見通しが見えず、不安や負担感でいっぱいになる人が増えるが、専門職がかかわらなくても、ちょっとした介護の経験を教えたり、伝えてくれる関係性が地域の中にない。	A
篠岡	高齢化や空き家も増えている。高齢になってからの入居や、入居後ひとりになる世帯も多く、近所付き合いもなく、周りから生活実態が見えにくい。ひとりで生活している人に何が起きているか関心を持たないことで、自分の住むエリアにどんな影響やリスクが及ぶかを考えようとしない	A
篠岡	・認知症の方が何を一番望んでいるのかに、周りの方の関心が向かない。 ・陶オレンジカフェでは昔馴染みのつながりがあるが、その馴染みの関係性が在宅生活継続の貴重でかつ有効な資源であることの理解がなかなか広まらない。	A
篠岡	ひとり暮らしの認知症の方が増えていく中、一部の住民だけで認知症の方の在宅生活を支えるには限界があるが、地域で認知症の理解がまだまだ進んでいない。	A
篠岡	坂が多い地形で、農村地区と宅地開発された地区が混ざっており、知ってはいるが付き合いはないという人もいる。住民がお互いに関心を寄せ合うことが、何よりも自分が安心して暮らせる地域となるということに、まだまだ気づきがない。	A
篠岡	高齢化や空き家も増えている。高齢になってからの入居や、入居後ひとりになる世帯も多く、近所付き合いもなく、周りから生活実態が見えにくい。ひとりで生活している人に何が起きているか関心を持たないことで、自分の住むエリアにどんな影響やリスクが及ぶかを考えようとしない	A

包括	内容	分類
篠岡	地縁のつながりがあり、家の事情も知っている。本人の暮らしぶりから、ゆくゆくは周囲に迷惑を与える存在とわかっていても、どう関わっていけばいいのかわからない。	B
篠岡	・集いの場へ参加されない方を誘い出す仕組みがない。 ・閉じこもりが増えていく（サロンに誘っても、「自分はまだ行くには早い」、「若い人が行くところだから自分はもう行けない」と思っている方がいる	A
篠岡	介護保険や障害サービスの対象外の方の困りごとの協力体制が整っていない。	A
篠岡	「孤独」ではなく、周りの人とつながっていない孤立の人が増えている。孤立している自覚のない人や、孤立している人の情報を共有する場がない。	A
篠岡	周辺地域だが、宅地開発が混じっている地区。知ってはいるが、付き合いはないという人も多い。坂が多く、行き来が少ないことも原因。家族や地域とのつながりが薄れて孤立したまま状況が悪化してもSOSを発信できない人や、発信する能力が低下している人がいるという気づきがまだまだ足りない。	A
篠岡	社会参加の場（サロンや趣味活動などでのつながり）を活用したいが、既存のサロンや趣味活動の場に途中からだと入りずらい空気があるし、そこで何をしているのかわからない人が多い。	A
北里	民生委員、区長だけでは地域の見守りが難しく限界がある	A
北里	医療機関で身寄りのない方の受診、入院手続きの付き添い	A
北里	キーパーソンが外国人の配偶者であり、言語の問題から手続きや制度の理解が出来ない	B
北里	身寄りのない方が、入院時に身元保証人、身元引受人を求められる	A
北里	借家住まいで、地域と関わりの無いひとり暮らし高齢者の把握	B
北里	ゴミの分別、ゴミ出しが一人では出来ない	B
北里	持ち家だが売却できず、無年金で生活資金が準備出来なく生活困窮	B
北里	日中独居の認知症高齢者、家族が関わろうとしない、ネグレクト	B
北里	身体障害のある高齢の親と精神疾患のある子どもの世帯への支援	B